

26 保育所における発達障害に関する研修会の効果について

秩父学園 地域支援課

佐山智洋 新妻里紗 松上耕祐 村上功二 齋藤信哉 永吉敏広
佐藤千代子（秋草短大） 緒方明子（明治学院大）

【はじめに】発達障害者支援法においては、発達障害者支援センター等の役割として、第14条-3において、「医療、保健、福祉、教育等に関する業務を行う関係機関及び民間団体並びにこれに従事する者に対し発達障害についての情報提供及び研修を行うこと。」とされており、児童発達支援センターや発達障害者支援センター等で研修の充実が図られている。これまで多くの研修会が実施されているが、研修によってどのような効果が期待できるのかや、実際の支援にどの程度活かされているのかといった、研修会の効果について検証された研究は少ない。そこで、保育士に対する研修会を実施し、その効果を検証し、研修会の有効な実施方法について検討を行った。

【方法】

対象：X市内保育所の内、研修会の実施と研究協力を得られたA園（私立）、B園（公立）の2園を対象とし、研修会および質問紙調査をそれぞれ実施した。研修会は全職員を対象とした。質問紙調査は、研修に参加した職員を対象におこなった。

質問紙：質問紙は、フェイスシート、専門性に関するアンケート、困難さに関するアンケート、支援の実態に関するアンケートで構成した。

実施時期：事前調査を20XX年6月、研修会を7月上旬から9月上旬、事後調査を研修会終了後、1ヶ月後に行った。

研修会の内容：研修会は全2回実施し、①自閉症の特性と②具体的支援方法についての講義を行った。

【結果】専門性に関するアンケートの内、支援知識に関する項目（「構造化について基本的なことを知っている」など複数の項目）、支援を実行する姿勢に関する項目（「積極的に特別な支援を進めることができる」など複数の項目）で有意な上昇が見られた。支援の実態に関するアンケートでは、「順番が分かりやすいように待つ位置に目印などを置いている」などの項目で有意な上昇が見られた。困難さに関するアンケートでは、有意な変化は見られなかった。またA、B園の結果を比べると、支援の実態に関するアンケートの項目に差が見られた。

【考察】アンケート結果を分析すると、自閉症の特性と具体的支援方法の研修会は、支援知識の向上が期待できることがわかった。支援の実行には、園によって差が見られ、保育士の特性（年齢・保育歴など）が影響すると考えられた。また困難さの軽減については、効果が見られなかった。このことから支援実行の充実や困難さの軽減のためには、研修会だけではなく、他の方法（訪問支援などの定期的な援助）が必要であると考えられた。今後の課題として、保育士の特性と研修会の効果との関係や、困難さの軽減のための援助方法について明らかにしていきたい。